

個別施設の方向性に関する意見概要

1 集会施設

【旧市町村単位】

- 生涯学習機能は継続して残していくということなので、市の方針どおりでいいと思う。
- 皆瀬生涯学習センターは老朽化しており、周辺の公共施設も一緒に建て直せばいいと思う。整備する際は、社会情勢の変化を考慮して建物のレイアウトが機能的に変化できるようにすればいいのではないかな。

【地区単位】

- 自治組織は結成から10年以上経過しており、地区センターで事務局機能を持っている場合が多い。ところが、湯沢中央部のみ事務局機能がなく、地区によって差があるのが実情。
- 地区センターについて、将来的には指定管理に移行する方向だが、地元団体が受け皿となれるように、行政が育てていく必要があると思う。

【町内会・集落単位】

- 川連老人憩の家は、地域の集会所として指定管理料により運営している。地元としては、全て自前で運営していくのは厳しいと思う。廃止ではなくコンパクトに建て替えてはどうかとの意見もあった。
- 資料を見ると、廃止して何も対応しないという項目はないようだ。譲渡するにしても、地域住民との話し合いが一番の土台になる。

2 文化施設

- 湯沢文化会館について、せっかくいい建物だと言われても稼働率が悪ければ宝の持ち腐れになってしまう。こういった施設をもっと有効活用して地域の活性化につながるような工夫が必要。
- 湯沢文化会館の稼働率が低いのは、使用料が高いからではないか。もっと安い使用料にして利用率を上げればいいのではないかな。

3 図書館

- 湯沢図書館は、駐車場が狭いので本を返すだけでも大変である。
- 全体的に、指定管理や民間活力のような言葉が多く、市の直営からどんどん手放していくイメージがある。図書館は貴重な資料などを扱っており、市の直営の方がいいのではないかな。

4 博物館

○院内銀山異人館は、地元では一度行くと再度行くことはあまりないが、市外からの利用者の評判は良かったので、市唯一の博物館として存続してほしい。

5 レクリエーション施設・観光施設

○皆瀬観光物産館と小安峡温泉総合案内所は距離的に近く機能も類似している。地元の小安峡温泉でもここをどのように活用すればいいか検討しており、例えば、地域の人の特産品を販売して主体的に収入を得る仕組みを作るなど、誘客を高めるための工夫が必要である。

○ダリア園は、周辺に民間施設があるため廃止という方向だが、これは市民の理解が得られるのではないかな。

6 保養施設

○皆瀬農業者等休養施設は、温泉に入って部屋で休憩している方々が多くいる。旅館や民宿は、日帰り入浴はできるものの休憩スペースが十分にあるわけではないので、利用者の声を聴きながら方向性を検討してほしい。

7 産業系施設

○地熱が農業分野に活用されている例として皆瀬地熱農産加工所や地熱利用ハウスがある。このような施設をジオパーク施策と絡めて一体的な方向付けをすることで、民間の地熱開発に伴う地域貢献事業で取り組みを後押ししてもらえるのではないかな。

○産業振興に関して、ソフト面の対策はどのような取り組みをしているのか知りたい。

8 学校、その他教育施設

○近年の猛暑によりエアコンがない建物は子どもの健康に悪影響を及ぼすので、子ども達が利用する施設は、環境面に配慮すべきと思う。

9 幼児・児童施設

○学校内に児童クラブを設置するのは、子どもたちの安全面からも大賛成。

○三関小学校区には児童クラブが設置されていないため、三関地区センターのキッズステーションを利用するか、遠方（他学区）の児童クラブを利用するしかない状況。三関小学校にも空き教室があるので、未設置学区を早期に解消してほしい。

○児童クラブとキッズステーションは、統合された運営が望ましいと思う。

○学童保育は必要。ただし、全児童対策として地域全体で子ども達の居場所づくりを

しっかりやらなければならない。

10 高齢福祉施設、障害福祉施設

○福祉センターは社協が指定管理を受けている。社協は市からの補助金が収入の大きな割合を占めており、人件費や活動費の面で制限があって厳しい状況なので、機能の充実（指定管理業務の追加）には様々な課題があると思う。

11 医療施設

○皆瀬診療所について、施設の老朽化は課題だが、常勤医師が不在という課題も抱えている。市には常勤医師の確保をお願いしたい。

12 庁舎等

13 公営住宅

14 その他（車庫・倉庫、用途廃止施設）

○市が利用しない施設は、地域団体や民間団体に活用してもらえるような取り組みを進めてほしい。
○旧湯沢北小学校は、市の備品等を保管しているが、イベント準備のときはスタッフとして市民も利用している。移転する場合は、運びやすさや立地などを考慮してほしい。

15 共通

○公共施設の再編は、公共交通の維持確保と関係する重要な問題である。
○市民の意見を伺う際は、年配者のみならず若い世代の意見も伺うべき。また、意見交換の場に参加するときは、年配者からも若者に声掛けしてほしい。
○施設の方向性を検討するには、利用者の声も判断材料の1つになる。廃止の方向としている施設の利用者がどのように考えているのか、意見を伺う場が必要ではないか。